

# 2025年3月期第2四半期 決算説明会

東証プライム 4249

森六ホールディングス株式会社

2024年11月19日

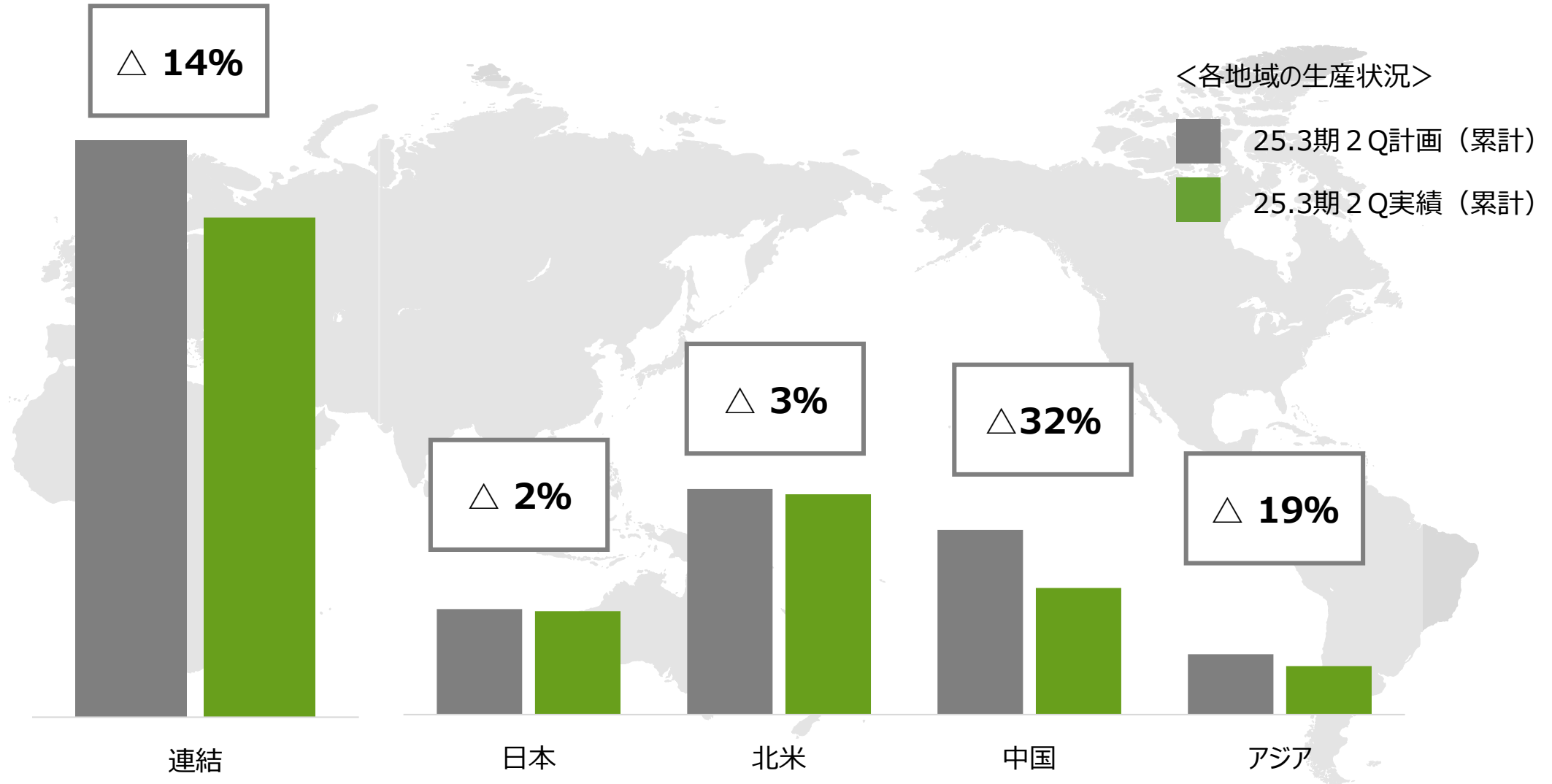
1. 2025年3月期 第2四半期決算	P. 2
2. 2025年3月期 業績予想の修正	P. 18
3. トピックス	P. 22
4. 参考資料	P. 25



# 1. 2025年3月期 第2四半期決算

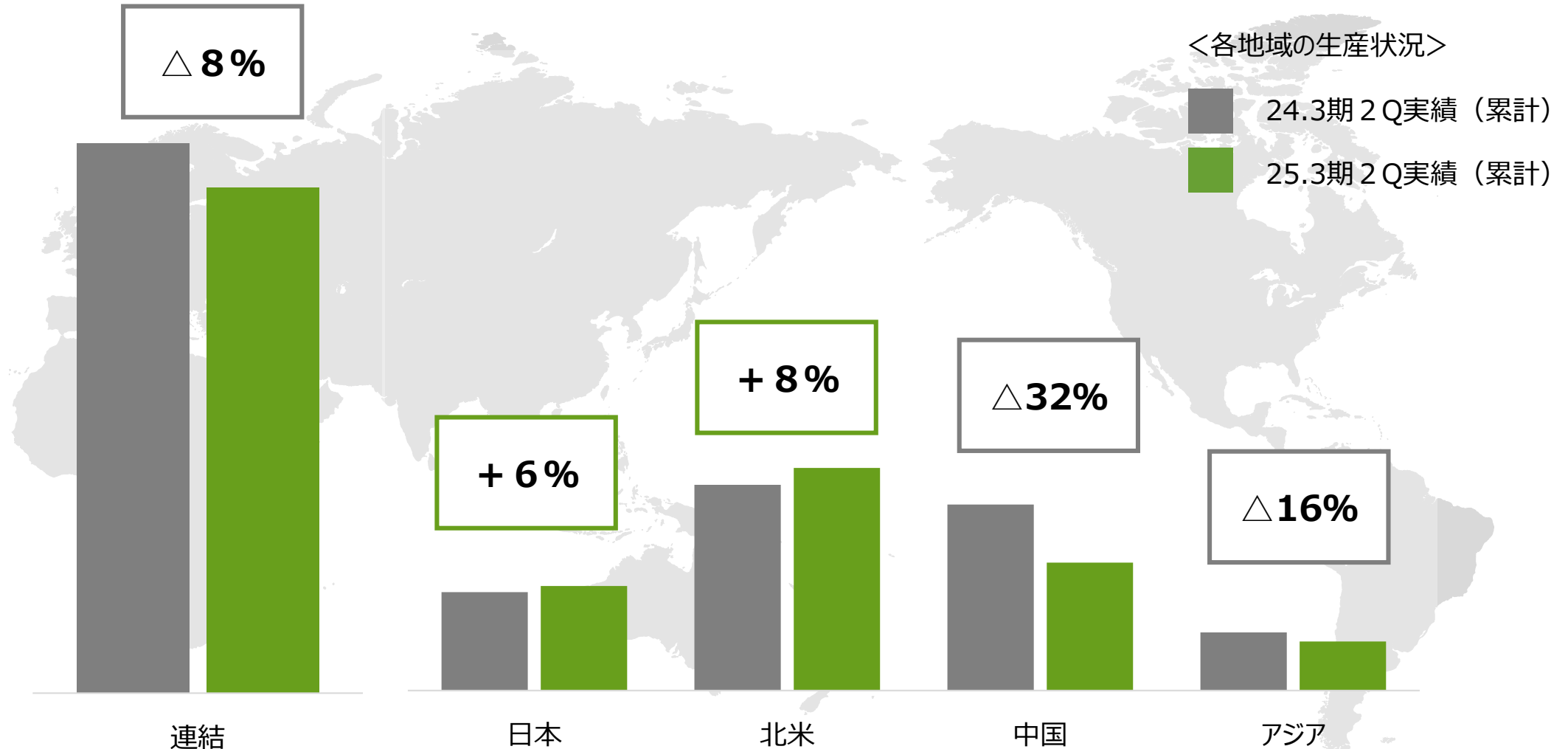
# 2025年3月期第2四半期 事業環境（対計画比）

EVシフトや現地メーカーの台頭により中国で減産が継続、アジアも国内販売の低迷により生産減



# 2025年3月期第2四半期 事業環境（対前年同期比）

中国、アジアの減産が響き、前年同期の生産を下回る



（注）2025年3月期第1四半期決算補足資料における同ページにおいて、北米および連結の数値に誤りがありました。修正版を本資料の参考資料に掲載しております。

## 2025年3月期第2四半期 連結業績

対前年：円安の影響により増収、生産現場におけるコスト改善努力により営業利益は増益となるも、メキシコの為替差損の計上により、経常利益、中間純利益は前年同期を下回る  
 対計画：中国、アジアの減産幅が想定より大きく、製品構成の悪化もあり、減収減益

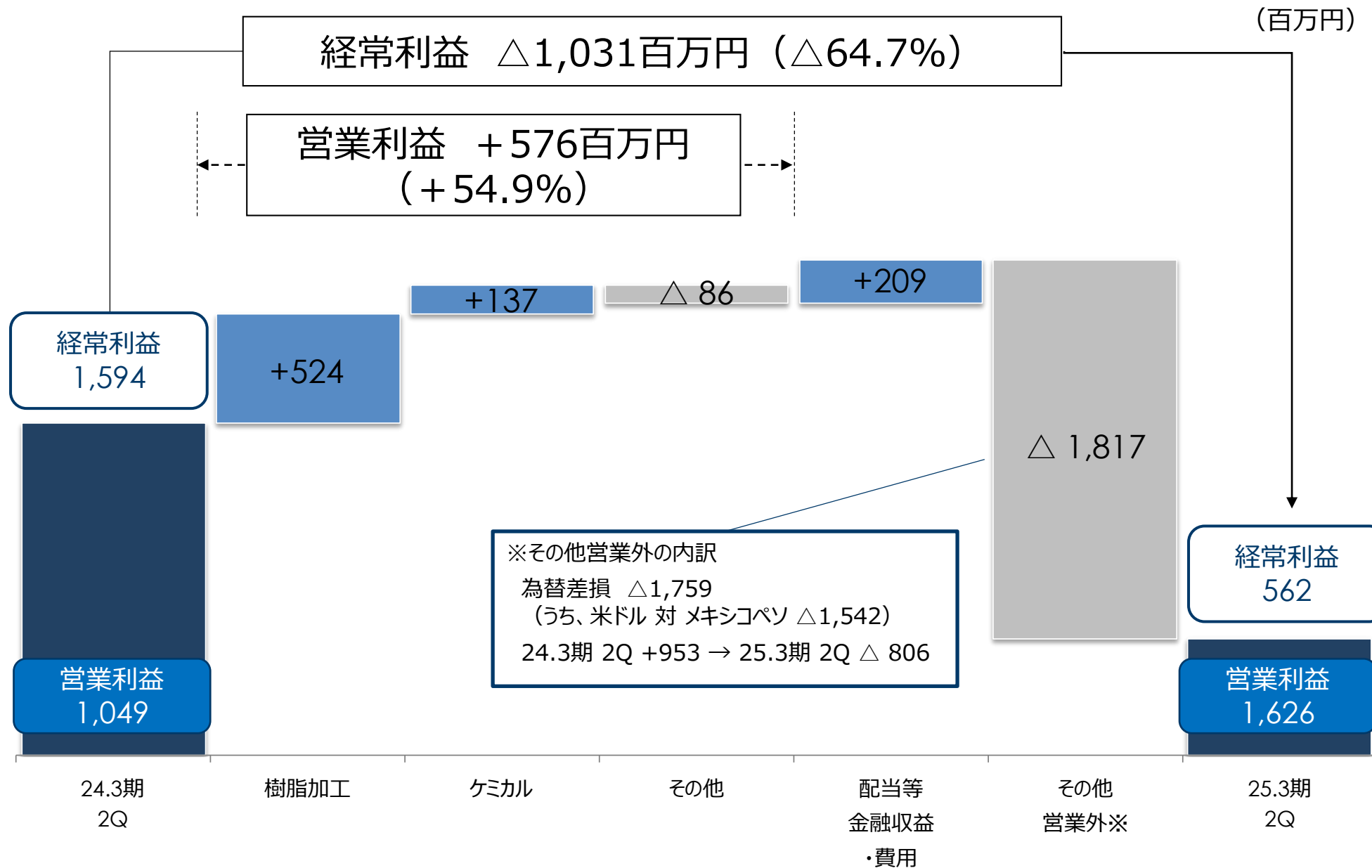
(億円)

	24.3期 2Q実績	25.3期 2Q実績	対前年 増減率	25.3期 2Q予想	対予想 増減率
売上高	669	<b>716</b>	7.0%	726	△1.3%
営業利益	10	<b>16</b>	54.9%	19	△14.4%
営業利益率	1.6%	<b>2.3%</b>	0.7pt	2.6%	△0.3pt
経常利益	15	<b>5</b>	△64.7%	17	△66.9%
親会社株主に帰属する中間純利益	9	<b>2</b>	△79.4%	10	△79.9%
為替 (USDドル)	141.1円	<b>152.7円</b>	8.2%	140.0円	9.0%
(中国元)	19.5円	<b>21.1円</b>	8.3%	19.3円	9.2%
ナフサ価格 (円/kl)	65,600円	<b>78,000円</b>	18.9%	68,000円	14.7%

※ 為替影響

24.3期2Q 売上高+22億円、営業利益△27百万円 / 25.3期2Q 売上高+38億円、営業利益△1百万円

# 経常利益・営業利益 増減分析



# 2025年3月期第2四半期 セグメント別業績

樹脂加工製品事業、ケミカル事業とも増収増益

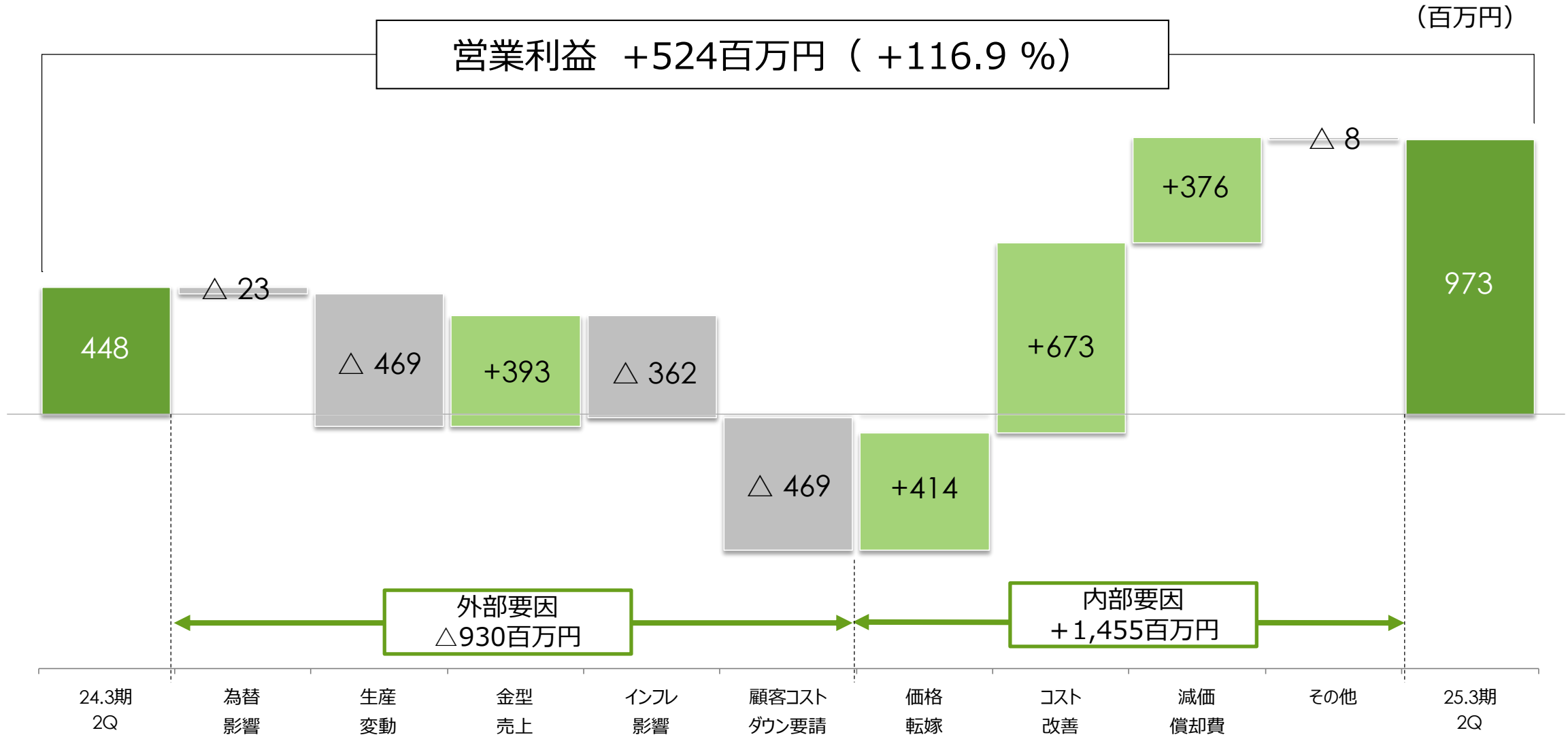
(億円)

	24.3期 2Q実績	25.3期 2Q実績	対前年 増減率
売上高	669	<b>716</b>	7.0%
樹脂加工製品事業	535	<b>581</b>	8.7%
ケミカル事業 ※	134	<b>135</b>	0.4%
営業利益	10	<b>16</b>	54.9%
樹脂加工製品事業	4	<b>9</b>	116.9%
ケミカル事業	7	<b>8</b>	18.3%
営業利益率(%)	1.6%	<b>2.3%</b>	0.7pt
樹脂加工製品事業	0.8%	<b>1.7%</b>	0.9pt
ケミカル事業 ※	5.6%	<b>6.5%</b>	0.9pt

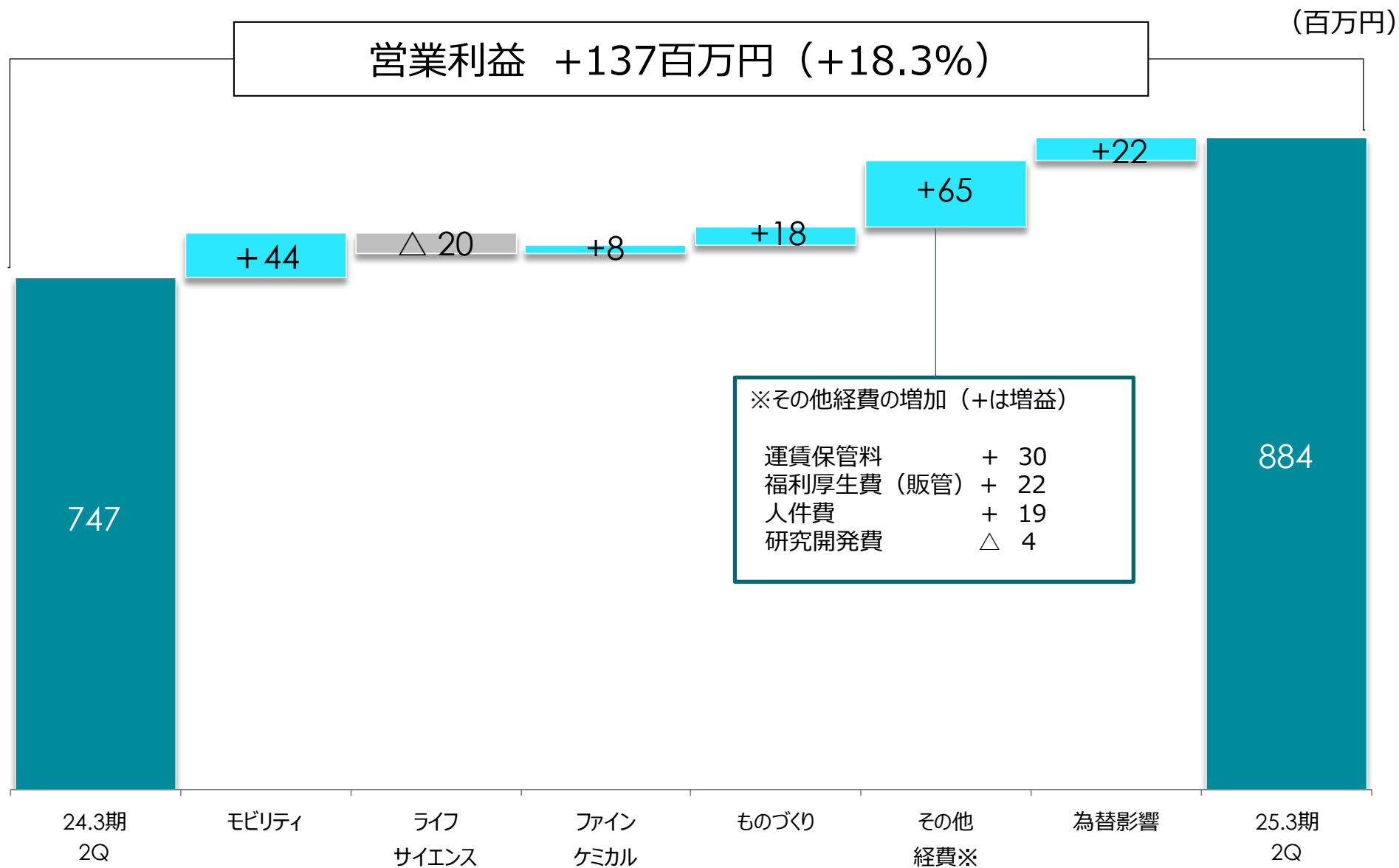
※ 「収益認識に関する会計基準」等を適用しない場合の参考値  
 24.3期2Q 売上高356億円、営業利益率2.1% / 25.3期2Q 売上高363億円、営業利益率2.4%



# 樹脂加工製品事業・営業利益 増減分析



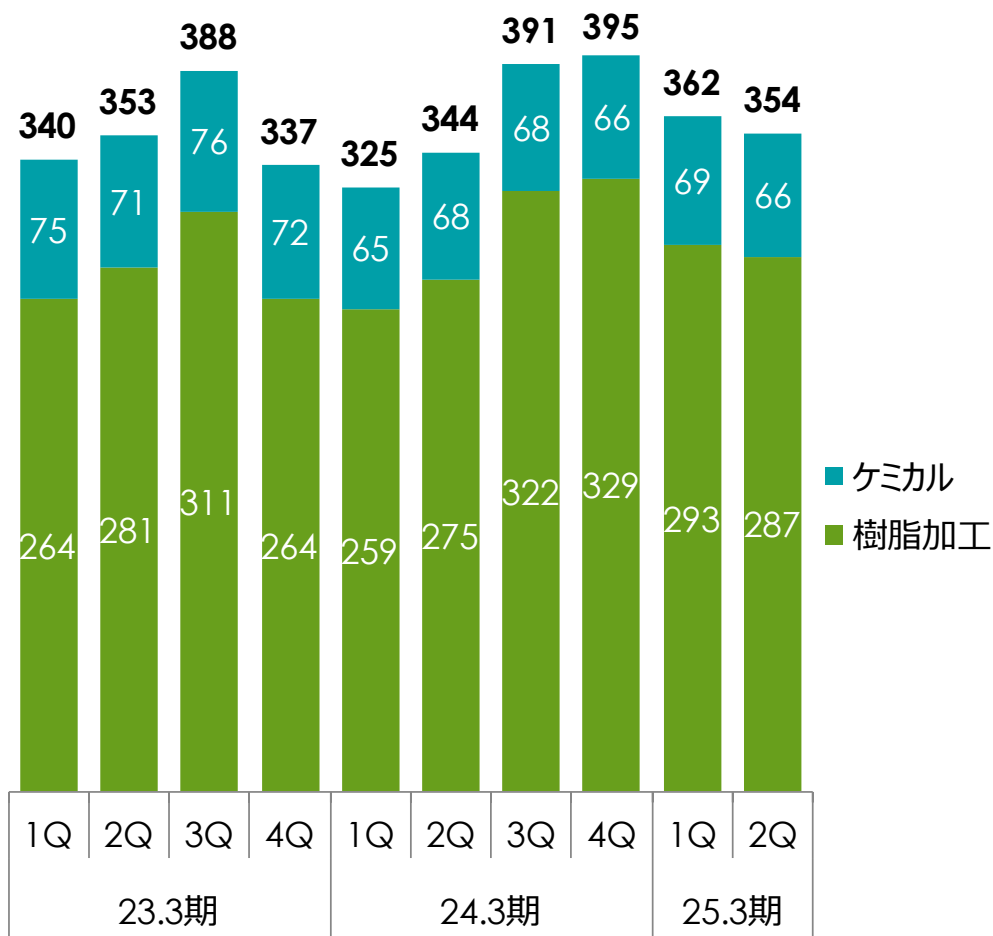
# ケミカル事業・営業利益 増減分析



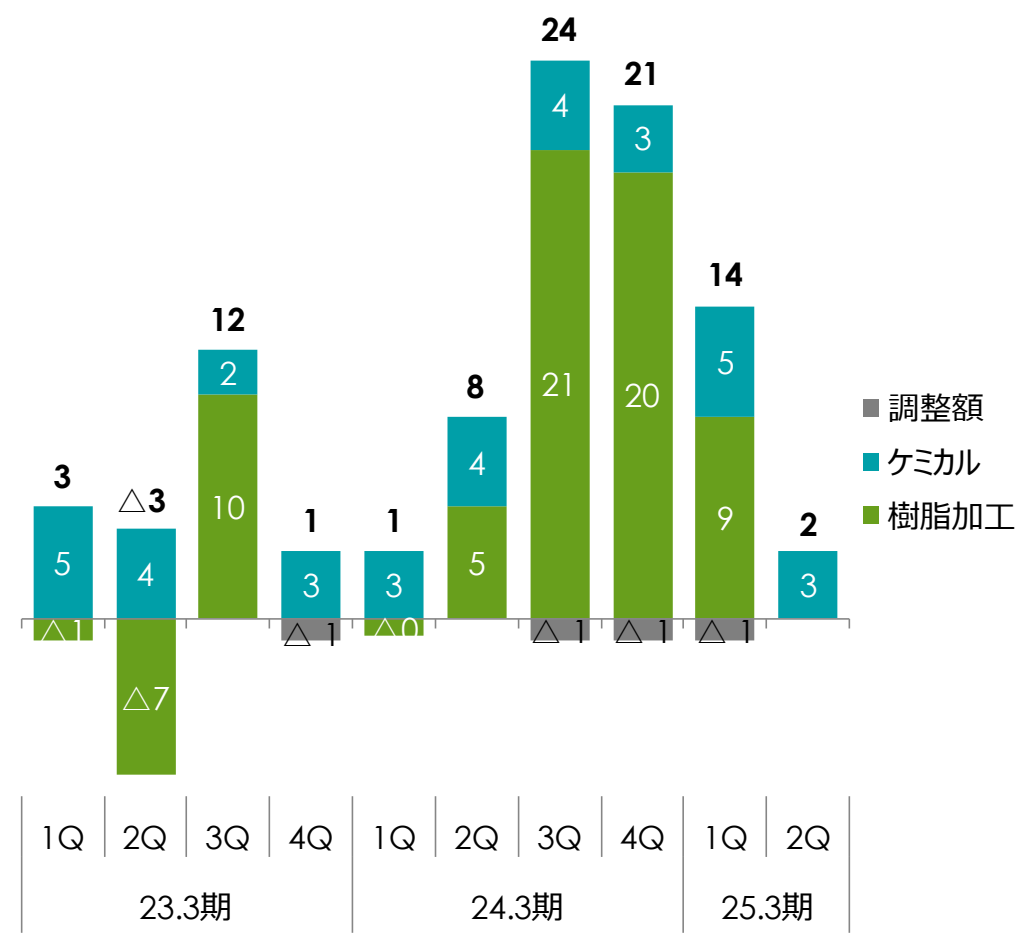
# セグメント別・四半期推移

ケミカル事業は総じて安定して推移するも、樹脂加工製品事業における中国の状況悪化が加速

### セグメント別・四半期売上高（億円）



### セグメント別・四半期営業利益（億円）

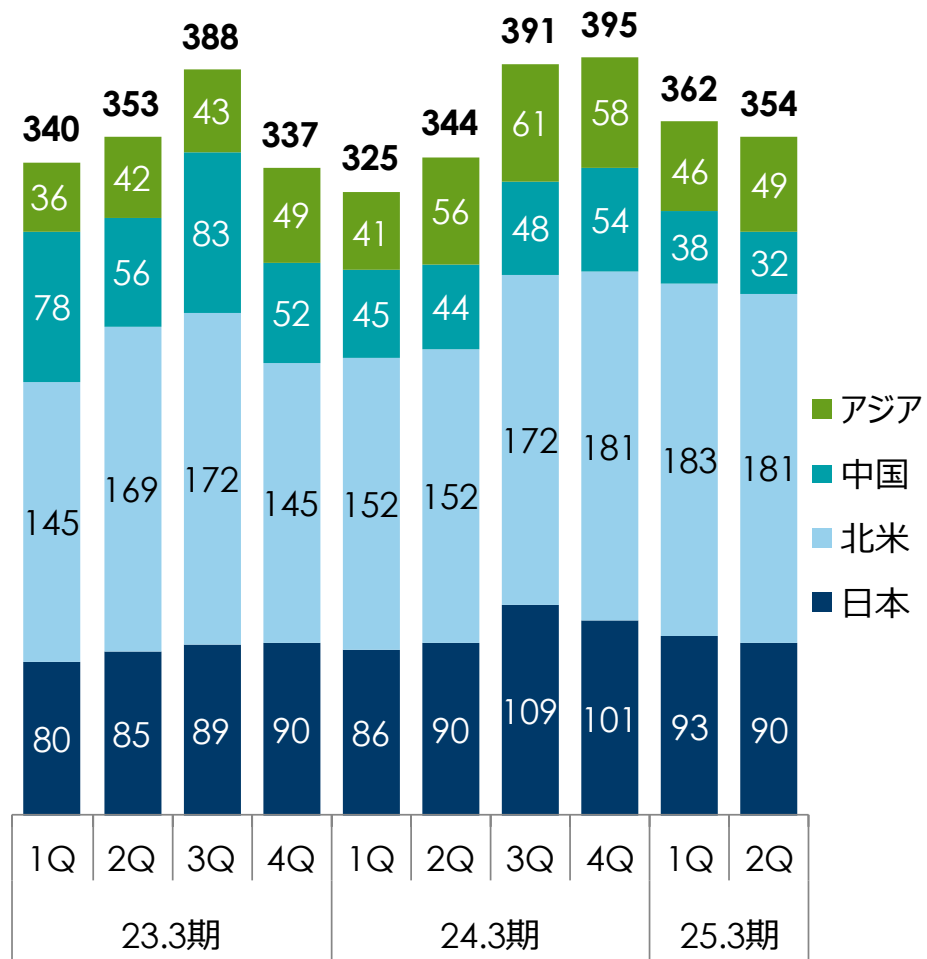


※ 1億円以下の調整額は、表示していません。

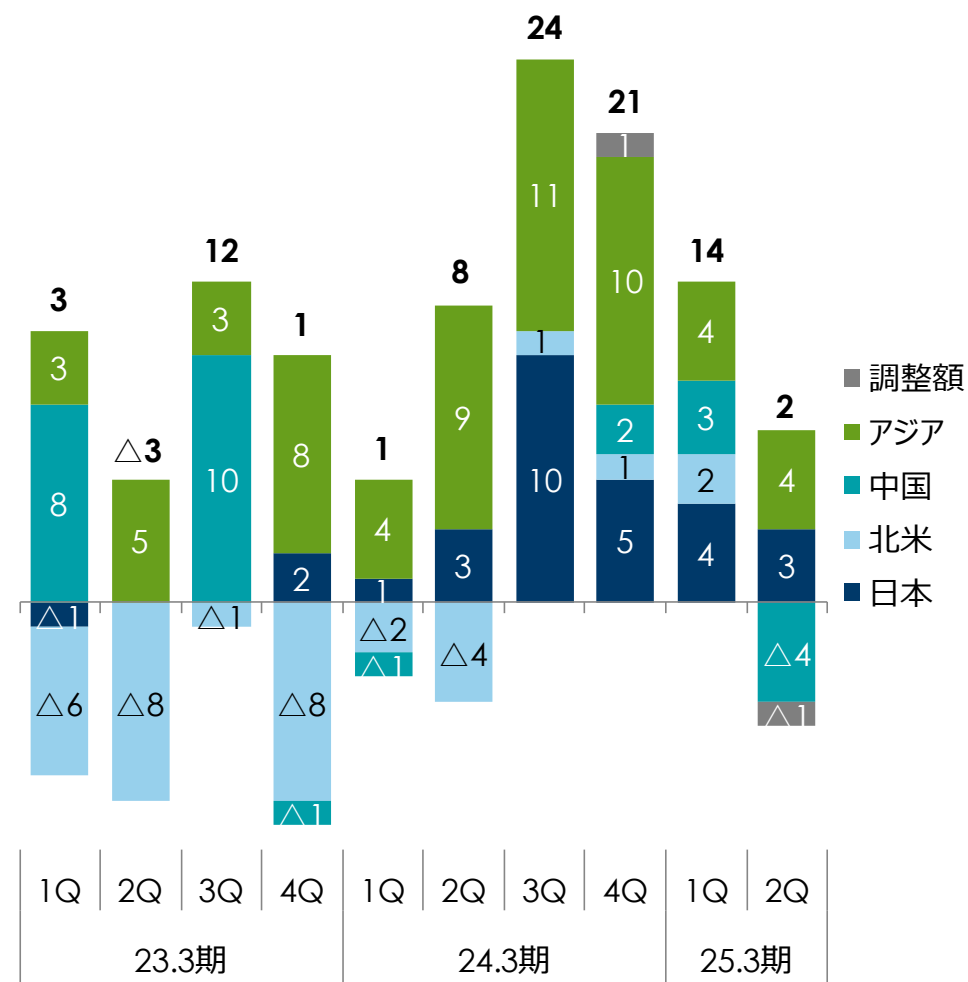
# 所在地別・四半期推移

北米：地域によって収益性に差があり、北米全体としては利益を出せず  
 アジア：タイを中心に、減産に加えて高付加価値車種も減少

所在地別・四半期売上高（億円）

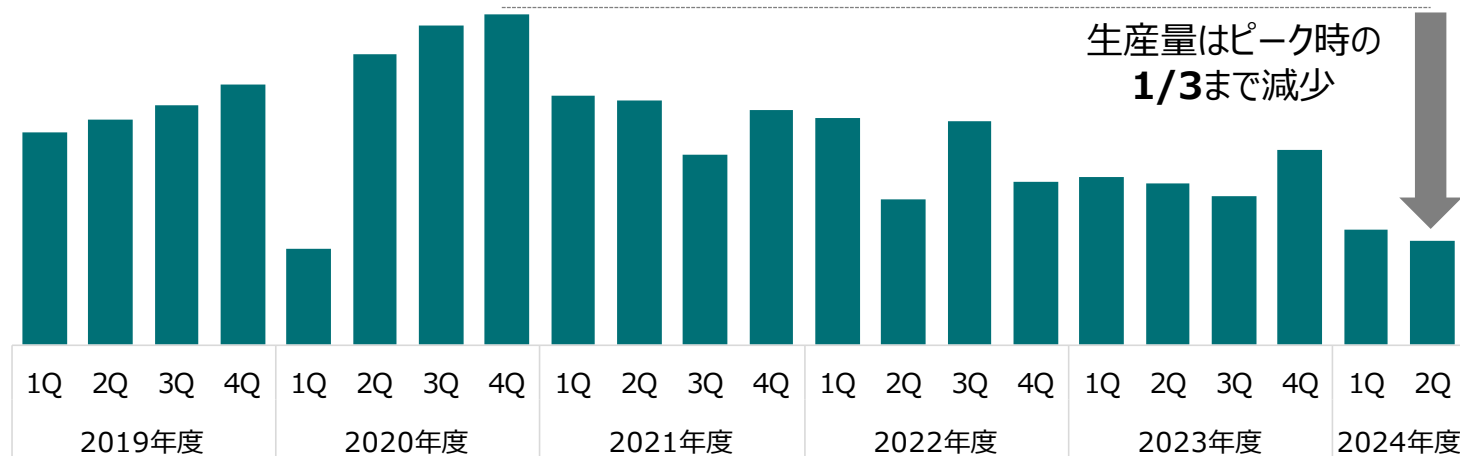


所在地別・四半期営業利益（億円）

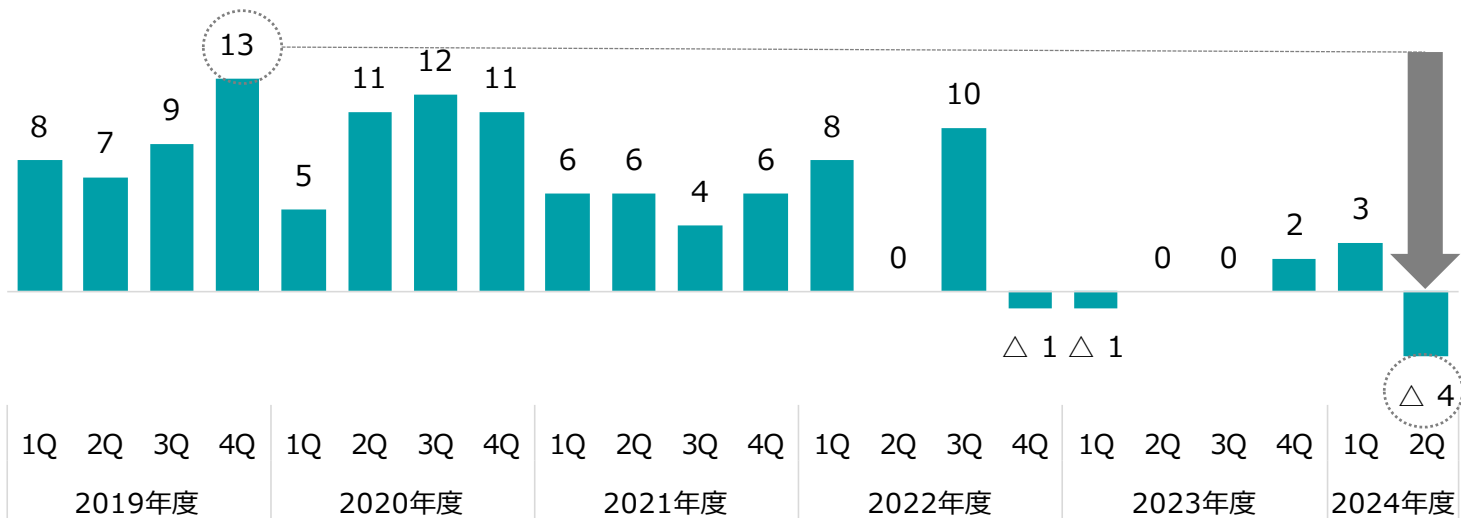


# 各国の状況：中国

## 中国における生産状況



## 四半期営業利益の推移（億円）

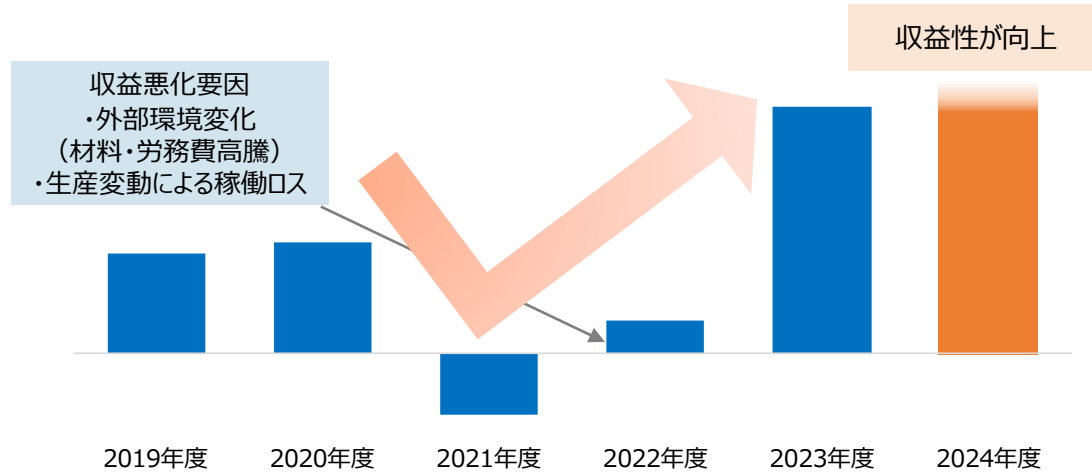


### 生産変動に柔軟に対応し 全体への影響を抑える

- 要員の適正化
- 自動化、省人化
- 倉庫の集約や積載効率の見直しによる物流費の改善

# 各国の状況：カナダ

## Listowel Technology, Inc. (LTI) の営業利益の推移



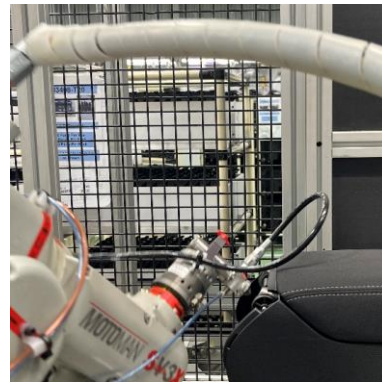
### LTIの成功事例を他拠点に展開し、 北米全体の収益向上につなげる

- 顧客の増産と生産の安定化に加えて、積極的な自動化の推進により、収益性の高い生産体制を構築
- 従業員の定着率が安定し、社員エンゲージメントも向上
- 北米の他拠点にLTIスタッフを派遣し、自動化や収益改善策のノウハウを水平展開中

### 具体的な取り組み



成形品梱包自動化設備



組立工程の自動化



塗装治具の自動洗浄設備



現地スタッフとの協働マネジメント



活発な社員向けイベントの様子

➤ 生産性の向上、品質向上、工程の短縮で、環境変化に強い生産体制へ

➤ 従業員の定着率やエンゲージメントが向上

## 2025年3月期第2四半期 貸借対照表（概略）

取引量の減少に伴い、売上債権、買入債務とも減少  
自己資本比率は56.5%となり、3.1pt上昇

(億円)

	24.3期末	25.3期 2Q末	差額		24.3期末	25.3期 2Q末	差額
<b>流動資産</b>	782	<b>701</b>	△ 80	<b>流動負債</b>	532	<b>459</b>	△ 72
（現預金）	196	<b>183</b>	△ 13	（買入債務）	245	<b>203</b>	△ 41
（売上債権）	375	<b>327</b>	△ 48	（短期借入金・社債）	188	<b>169</b>	△ 18
（在庫）	152	<b>145</b>	△ 7	<b>固定負債</b>	108	<b>100</b>	△ 7
<b>固定資産</b>	623	<b>616</b>	△ 6	（長期借入金・社債）	49	<b>43</b>	△ 6
（有形固定資産）	456	<b>457</b>	1	<b>負債合計</b>	641	<b>560</b>	△ 80
（投資有価証券）	125	<b>116</b>	△ 9	<b>純資産</b>	764	<b>757</b>	△ 7
				（利益剰余金）	579	<b>573</b>	△ 6
				（自己株式）	△ 14	<b>△ 5</b>	8
				（評価・換算差額）	143	<b>146</b>	3
<b>資産合計</b>	1,405	<b>1,317</b>	△ 87	<b>負債純資産合計</b>	1,405	<b>1,317</b>	△ 87
				<b>借入金・社債合計</b>	237	<b>213</b>	△ 24
				<b>自己資本比率</b>	53.4%	<b>56.5%</b>	3.1pt

## 2025年3月期第2四半期 キャッシュ・フロー

取引量の減少に伴い、営業活動CFが減少した結果、フリーキャッシュフローは15億円

(億円)

	24.3期 2Q	25.3期 2Q	差額
営業活動によるキャッシュフロー	72	<b>50</b>	△ 22
投資活動によるキャッシュフロー	△37	<b>△ 34</b>	2
フリーキャッシュフロー	35	<b>15</b>	△ 20
財務活動によるキャッシュフロー	△29	<b>△ 40</b>	△ 11
<b>現金及び現金同等物の増減額</b>	10	<b>△ 19</b>	△30
<b>現金及び現金同等物期末残高</b>	187	<b>175</b>	△12

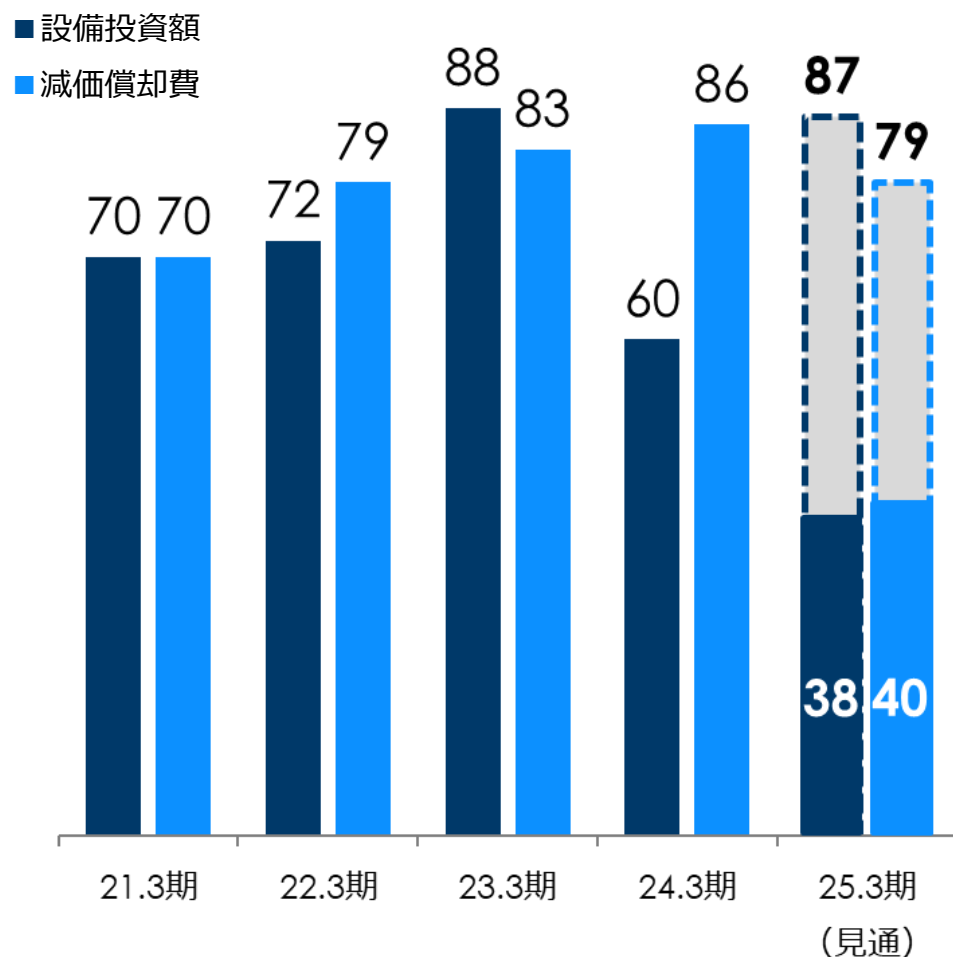


# 設備投資額・減価償却費および研究開発費

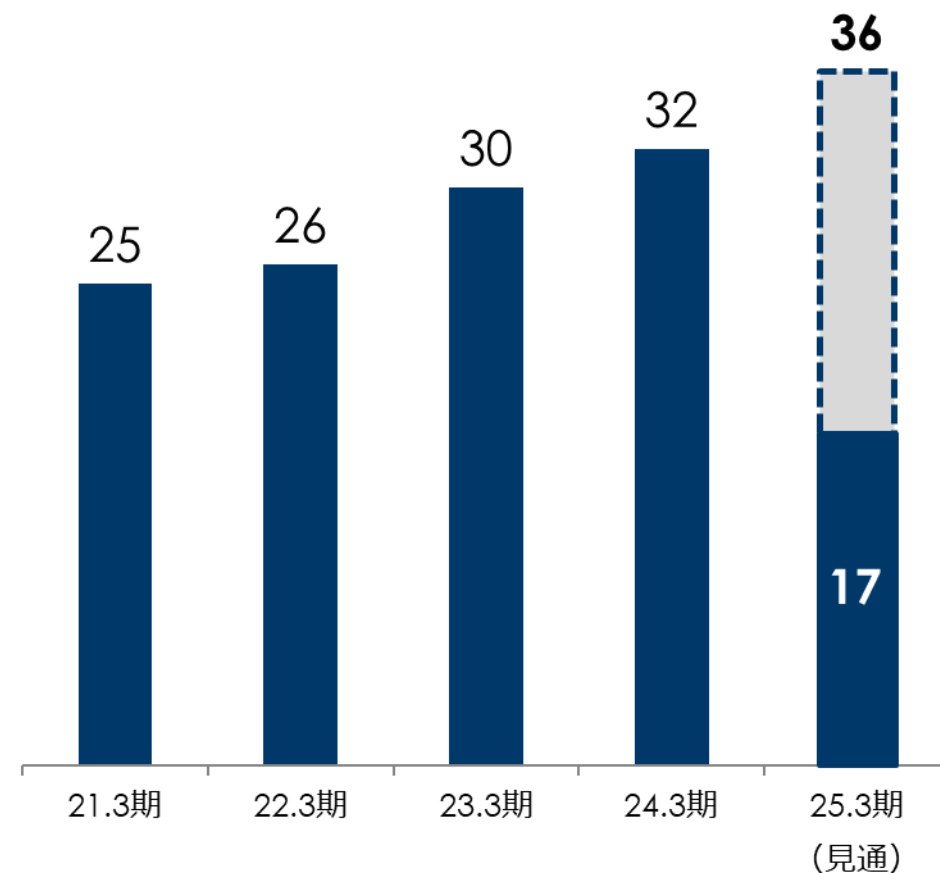
設備投資：日本、北米を中心に、新機種関連の投資や成形機の更新を実施

研究開発：次世代自動車のデザイン性、快適性、環境性能の向上に繋がる研究開発を推進

設備投資額・減価償却費(億円)



研究開発費(億円)



安定配当 + 自社株買いにより、更なる株主還元の充実に努める

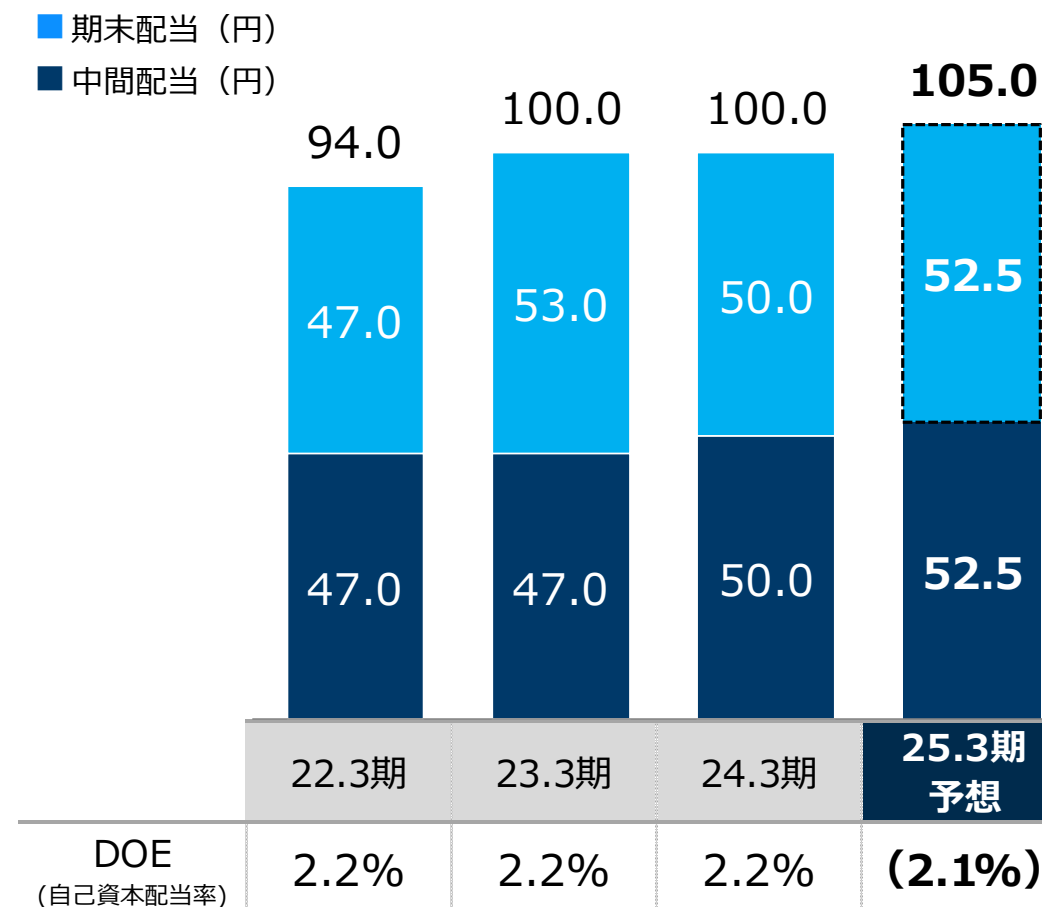
## 株主還元方針

- 自己資本配当率（DOE）を指標に採用
- DOE2.2%を目途に配当を実施し、将来的には3.0%を目指す
- 自己株式の取得・消却を機動的に実施し、更なる株主還元の充実に努める

## 自己株式の取得と消却

	22.3期	23.3期	24.3期	25.3期 2Q実績
自己株式の取得	11億円	13億円	9億円	5億円
自己株式の消却	-	-	24億円	13億円

## 1株あたり配当金の推移





## 2. 2025年3月期 業績予想の修正

## 2025年3月期 業績予想の修正

中国で引き続き厳しい状況が見込まれること等を考慮し、期初予想を修正

(億円)

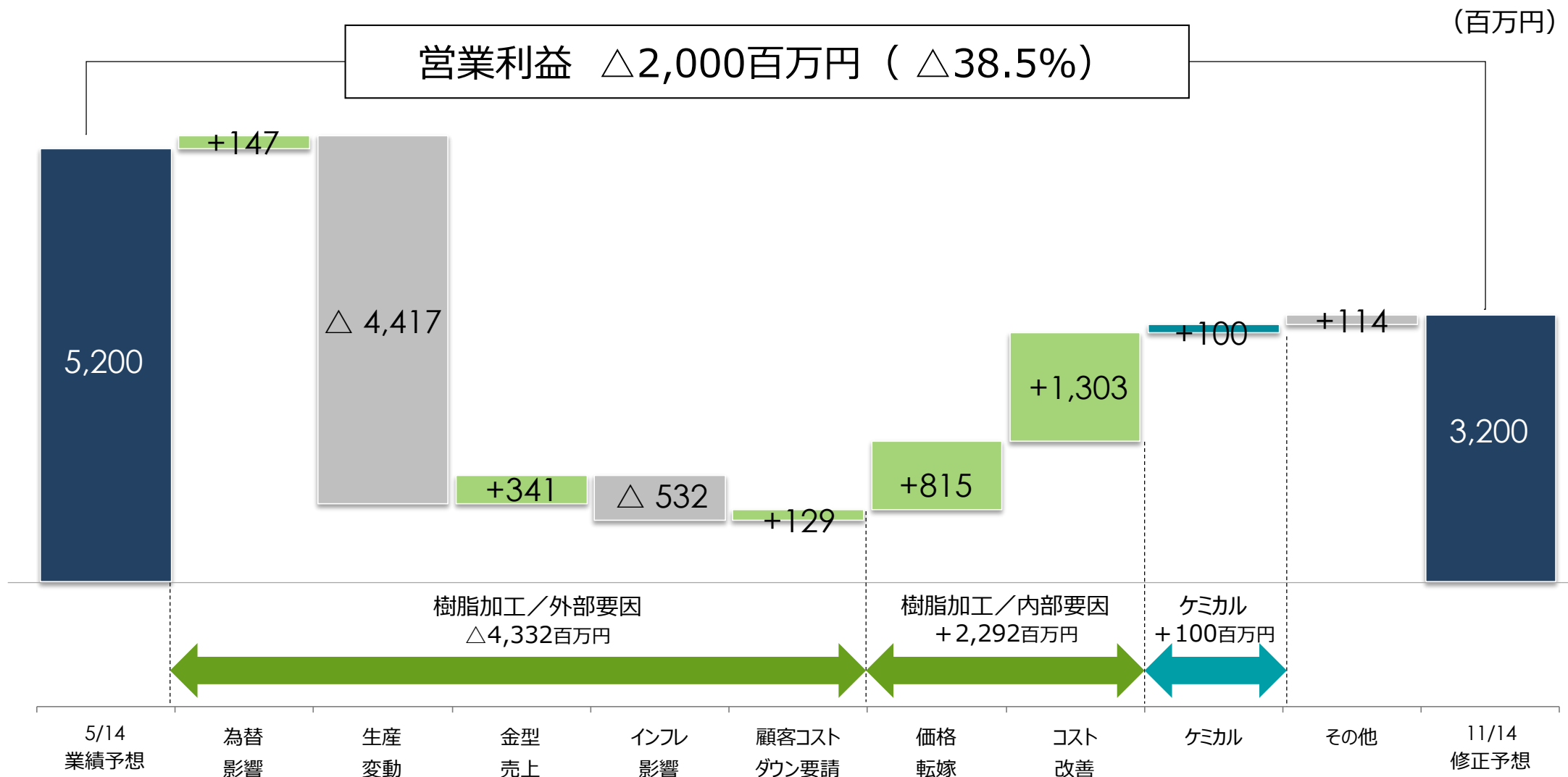
	24.3期 実績 (A)	25.3期			対前期 増減額 (C-A)	対前期 増減率 (C-A)/A
		期初予想 (5月14日) (B)	修正予想 (11月14日) (C)	修正額 (C-B)		
売上高	1,456	1,500	<b>1,450</b>	△ 50	△ 6	△0.4%
営業利益	57	52	<b>32</b>	△ 20	△ 25	△43.9%
営業利益率	3.9%	3.5%	<b>2.2%</b>	△1.3pt	△1.7pt	-
経常利益	61	48	<b>19</b>	△ 28	△ 42	△68.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	30	34	<b>11</b>	△ 22	△ 19	△63.3%
為替 (USDドル)	144.6	140.0	<b>145.0</b>	5.0	0.4	0.3%
(中国元)	19.8	19.3	<b>20.3</b>	1.0	0.5	2.4%
ナフサ価格 (円/kl)	69,100	68,000	<b>68,000</b>	-	△ 1,100	△1.6%

# 2025年3月期 セグメント別業績予想の修正

(億円)

	24.3期 実績 (A)	25.3期			対前期 増減額 (C-A)	対前期 増減率 (C-A)/A
		期初予想 (5月14日) (B)	修正予想 (11月14日) (C)	修正額 (C-B)		
売上高	1,456	1,500	<b>1,450</b>	△ 50	△ 6	△0.4%
樹脂加工製品事業	1,187	1,225	<b>1,156</b>	△ 69	△ 31	△2.6%
ケミカル事業	268	275	<b>294</b>	19	25	9.3%
営業利益	57	52	<b>32</b>	△ 20	△ 25	△43.9%
樹脂加工製品事業	46	43	<b>23</b>	△ 20	△ 22	△49.2%
ケミカル事業	15	14	<b>15</b>	1	0	1.4%
営業利益率(%)	3.9%	3.5%	<b>2.2%</b>	△1.3pt	△1.7pt	-
樹脂加工製品事業	3.9%	3.6%	<b>2.0%</b>	△1.6pt	△1.9pt	-
ケミカル事業	5.7%	5.3%	<b>5.3%</b>	-	△0.4pt	-

# 営業利益 増減分析 (期初予想 vs 修正予想)





## 3. トピックス



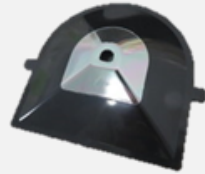


## 森六初となるトヨタ自動車向け技術展示会を開催

### コア技術の進化（ホットスタンプ加飾技術）



外装部品への拡大適用



立体形状への転写



部分着色  
(ステッチ)

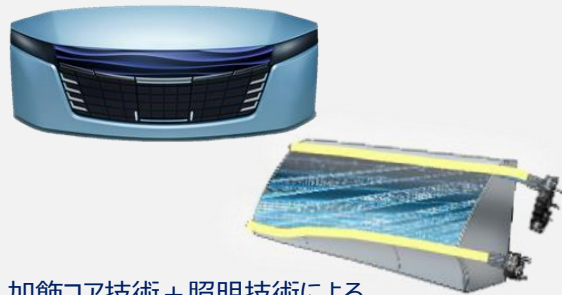


機能性付加  
(光透過)

技術の進化で  
機能性向上と  
部品形状制約を軽減



### 加飾と照明の融合



加飾コア技術+照明技術による  
多彩な意匠表現

### カーボンニュートラルへの貢献



環境材適用に向けた製品提案

### 次世代車に向けた車内空間の価値向上



車内空間の快適性とデザイン性を両立した  
コンセプトモデルによる提案

顧客のニーズを先取りした新製品・新技術の提案で、更なる受注拡大に繋げる

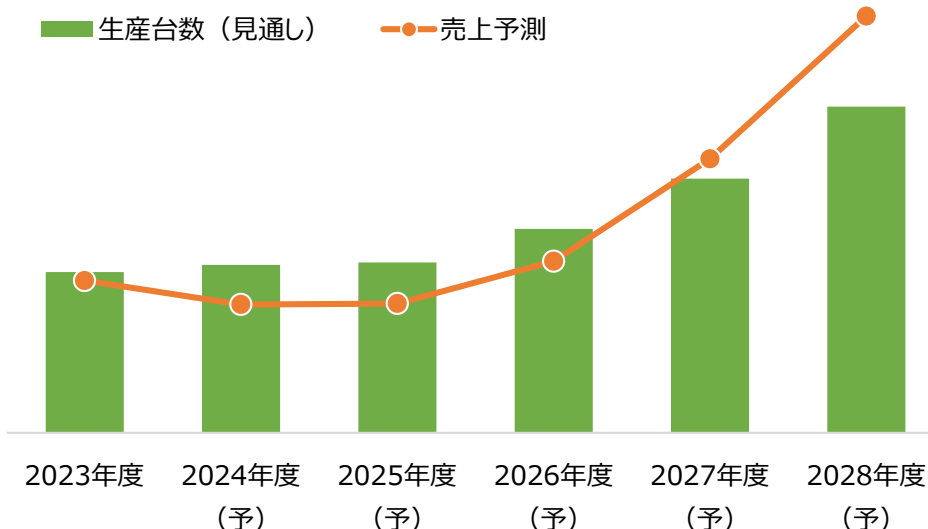


## インド工場で外装塗装ラインを新設し、生産能力を3割増強

### 工場拡張の背景と目的

- 人口増加や経済成長に伴う生産増加への対応
- 幅広い自動車メーカーからの受注に向けた事業基盤の強化
- 高付加価値部品の受注に向けた設備の増強  
(特に大物の外装塗装部品)

<インドの見通し>



※現在の主要顧客の生産計画のもと、量産が進んだ場合の予測になります。

### 計画の概要

- 建屋を1.5倍に拡張し、生産能力を3割増強
- 最新設備を導入した外装塗装ラインを新設
- 静電塗装による塗着効率アップ、ロボット導入による人件費の削減により、コスト競争力を強化
- 投資総額：約18億円



### 日程

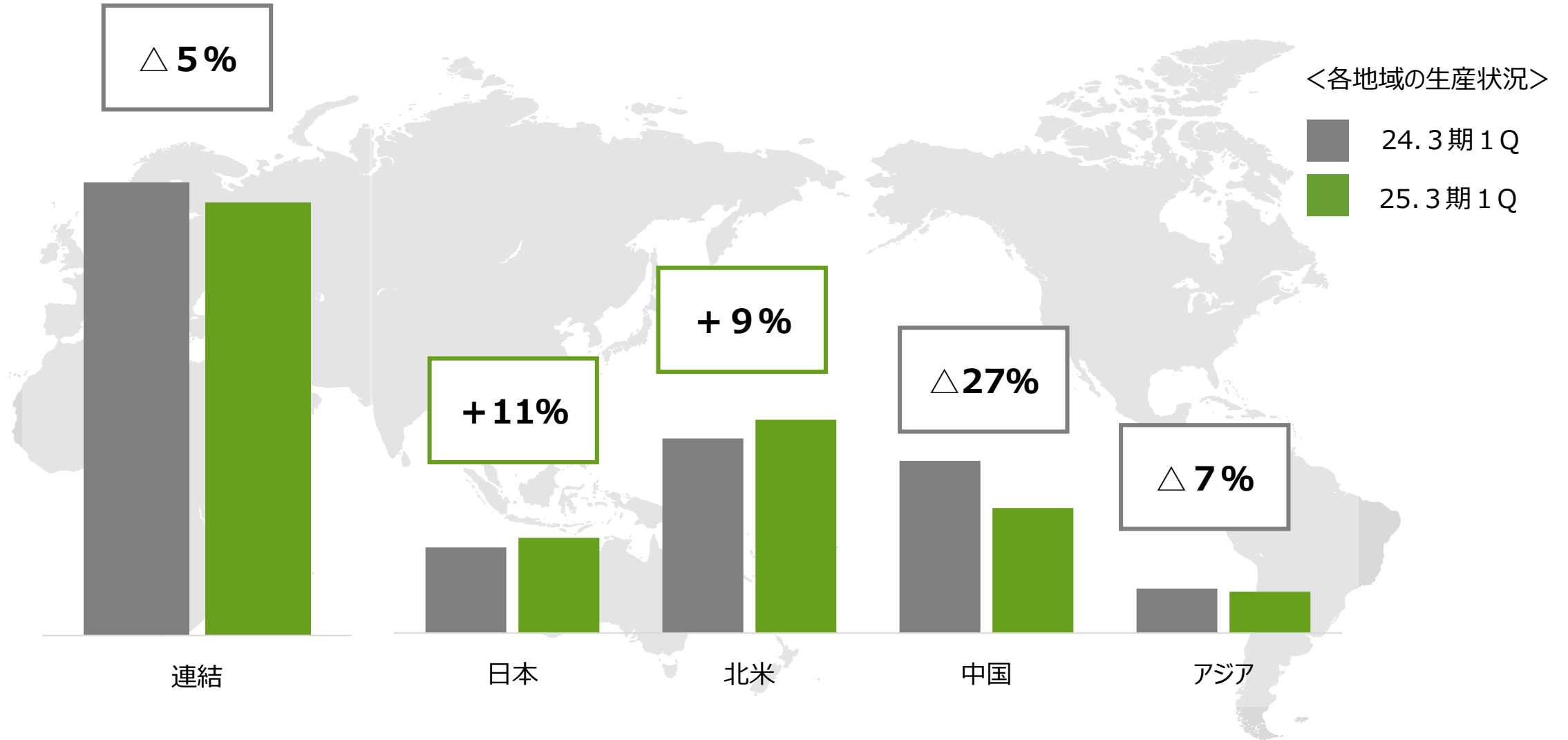
土地購入	2024年7月
建屋増築	2025年6月 (予定)
塗装ライン新設	2026年1月 (予定)



## 4. 參考資料



# 【修正】2025年3月期第1四半期 事業環境（対前年同期比）



# 2025年3月期第2四半期 所在地別売上高・営業利益

(億円)

	24.3期		25.3期		対前期 増減率
	2Q実績	構成比率	2Q実績	構成比率	
売上高 計	669	100.0%	<b>716</b>	<b>100.0%</b>	7.0%
┆ 日本	176	26.4%	<b>184</b>	<b>25.7%</b>	4.1%
┆ 北米	305	45.6%	<b>365</b>	<b>51.0%</b>	19.8%
┆ 中国	89	13.4%	<b>70</b>	<b>9.8%</b>	△21.6%
┆ アジア	97	14.6%	<b>96</b>	<b>13.4%</b>	△1.3%
┆ その他	0	0.0%	<b>0</b>	<b>0.0%</b>	26.6%
営業利益 計	10	100.0%	<b>16</b>	<b>100.0%</b>	54.9%
┆ 日本	5	48.7%	<b>7</b>	<b>47.2%</b>	50.3%
┆ 北米	△7	△69.8%	<b>2</b>	<b>17.6%</b>	-
┆ 中国	△1	△16.4%	<b>△1</b>	<b>△7.9%</b>	-
┆ アジア	14	134.3%	<b>9</b>	<b>56.1%</b>	△35.2%
┆ その他	0	4.7%	<b>0</b>	<b>0.6%</b>	△79.1%
┆ 調整額	△0	△1.5%	<b>△2</b>	<b>△13.7%</b>	-

## 森六グループ初となる統合報告書を発行



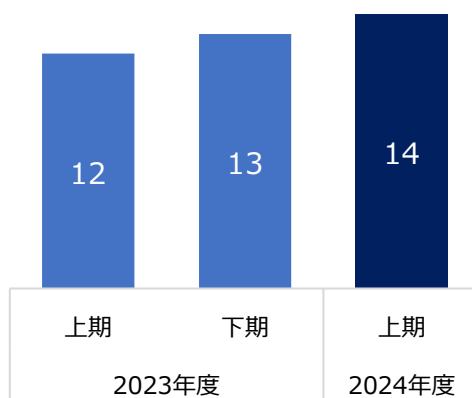
森六グループの持続的な企業価値向上に向けた取り組みについて、投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様により一層ご理解を深めていただけるよう、今回初めて統合報告書を発行いたしました。

当社の価値創造プロセスを根幹に、2030年長期方針を実現するための事業戦略やそれを支える財務戦略、サステナビリティ推進活動などを掲載しています。当社が過去から現在、そして未来に向けて一貫した信念をもち、創造性豊かな人材と優れた技術で社会課題を解決する企業であることをご理解いただけますと幸いです。

当社は引き続き、ステークホルダーの皆様への適時・的確な情報開示と積極的な対話に努めてまいります。

## 成長戦略、財務戦略、ESGなどをテーマに能動的に対話を実施

### 対話の件数と対応者



- 代表取締役社長、CEO
- 取締役副社長、CFO
- 執行役員 経理、IR担当
- 執行役員 経営企画、サステナビリティ担当
- 事業会社の取締役および執行役員

### 対話を行った株主の概要

- 国内機関投資家（議決権行使、ESG担当）
- ファンドマネージャー、アナリスト等

### 取締役会に対するフィードバックの状況

- 23年12月、24年7月、24年10月、株主構成や株主との対話におけるコメントなどを取締役会で報告

### 株主との主な対話内容

#### 成長戦略、財務戦略

- 事業環境の変化を踏まえた、長期ビジョンの見直し
- 成長戦略の明確化（具体的かつ定量的に）
- キャッシュアロケーションの開示
- 自己資本比率、設備投資、株主還元など、財務戦略
- 政策保有株式の縮減に向けた方針や今後の計画

#### サステナビリティ推進、ESG

- 気候変動問題解決に向けた積極的な投資
- 人材戦略や社員エンゲージメントに関する開示の拡充
- 長期ビジョンと連動した取締役のスキルの再定義
- 役員報酬の情報開示の高度化



## 【ご注意事項】

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。